

## 第9回 多職種勉強会

平成30年9月7日(金)開催

『ポリファーマシー(多剤投与)を知って、  
みんなで考えよう!』

松阪市では、介護と医療に関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進していこうと、平成26年より勉強会を開催しています。

9回目の今回は、内服薬がたくさん処方されている事例を通して在宅療養のあり方や多職種での関わり方について考えていただく勉強会を開催したところ、在宅での医療・介護に関わる専門職146名が参加されました。

### 【話題】

「薬剤師が多職種と共有したい現場の悩み」

スマイル調剤薬局下村店 薬剤師 西 美香氏

「リハ職のポリファーマシーへの関わり」

松阪・多気地区リハビリテーション連絡協議会会長  
理学療法士 木村 圭佑氏

専門職おふたりから、日ごろの実践をもとにした話題を提供していただいた後、グループワークを行い、現場での悩みや課題解決にむけてできることなどを話し合いました。

今回のグループワークでは、まず個人で課題と向き合っていた後、同じ職種同士で課題を共有し、その後ふたつの職種で課題に対してどのように考え、行動するとよいかについて深め合っていました。

今回は「ポリファーマシー(多剤投与)」という、職種によっては普段聞きなれない言葉からのスタートでした。また、言葉は知っていても、どのような課題と結びついているか、認識を新たにいただいた参加者もあったようです。

たとえば、副作用についてはピンときても、間違えて多く服薬してしまうことや、複数の病院から同じ薬が処方されているということに、どのように気づき、防ぐかと



ということまで関わり切れていなかった職種もあったようです。

グループワークでは、関わっている要支援者、要介護者のどんな様子から多剤投与に気づくか、どのように防ぐか、自職種としての視点や役割などについて熱心に話し合っていました。まさに、情報の共有や正しい知識が活かされる場面となることを、互いに認識しあえた勉強会になったと思います。

すぐにできることとして、お薬手帳の活用があります。また、かかりつけ薬局(薬剤師)を決めておくと、お薬に関する、ちょっとした相談もしやすくなります。

専門職だけが気をつけるのではなく、いかにしてご本人やご家族など身近な人にお薬の問題を意識してもらえるか、そんなことも考える機会になったようでした。

薬の問題点、怖さを知りました。(訪問介護)

ポリファーマシーに対する理解が深まったので、もう一度利用者さんのお薬について考え、情報収集し関係者と共有していきたい。(看護師)

薬剤師の方々が在宅に関わりたいて思ってみえるが、実際にはなかなか活動ができていない状況がわかりました。(介護支援専門員)

転倒や誤嚥がポリファーマシーと関係があるとは思ってなかったです。(保健師)

食事と薬の関係について学べた。(作業療法士)

グループワークで、積極的に取り組んでいく中で、ケアマネとよい関係が気づけた。(歯科医師)

ポリファーマシーの基本的な内容がわかってよかった。(言語聴覚士)

薬の管理がうまくできていない方がたんおられることが分かり、何かいい方法など、今後の実務の参考にさせていただきます。(薬剤師)



◎松阪地域の地域包括ケア推進のため、これからもご理解・ご協力をよろしくお願いたします。

事務局：松阪市健康福祉部高齢者支援課

☎ 53-4099 FAX 26-4035